

ひまわり通信 27ねん1がつ

↑主の平安

「鬼は外～福は内～」

2月になると「鬼は外～！福は内～！」という子供たちの声が聞こえてきそうです。私も小さい頃におおきな声で叫んだものです。子供ながら本気で自分のお家から悪いものが出て行って本当に幸せが来て欲しいと思っていました。「親が怒りませんように」とか「思いっきり遊べますように」とかいうレベルでしたが、切実な願いでもありました。

さて、子どもや私たち大人は願いを込めて豆をまきます。本当に私たちは幸せになりたいと願っています。自分の中にいる鬼＝悪を払い、祝福や幸せで自分の心を満たせたらどれだけ嬉しいことかと思えます。しかし発想を変えて考えますと、自分が感じてる自分の中にいる鬼を外に出すのではなく鬼を福に変えて、関わる人々に福をばらまくというのはいかがでしょうか。自分の中に福を増やして福を外へ出してあげるといいのではないのかなと思えます。「福は外～、福は内～」そのようになればもっと幸せになれるのではないのでしょうか。

園長 福崎



～レジリエンス～

最近レジリエンスという言葉をよく耳にします。先日もある雑誌の中に「貧困や難民生活の中では3分の2の子どもが非行に走るといわれています。しかし、3分の1の子どもたちは信じがたい困難の中からも立派な社会人に育っている事が調査でわかりました。その子どもたちはレジリエンスを持っています」という記事が載っていました。レジリエンスとはいったい何だろうと思いついてみると「困難で脅威的な状況にもかかわらず上手く適応する能力の事で、自分自身を理解し大切にすること、まるごと受け止め認める感情の基礎が土台になっており、小学校低学年くらいまでに育ちます」と書いてありました。どのように関わるとその部分が育つのでしょうか？1番は、自分自身が愛されている存在なのだと感じる事が大切になります。子どもはみんな、その子の中に宝をもっています。それに自分で気がつくこと、自分で自分を見つけること、何かに集中して一生懸命取り組んでいる時の子どもは、喜びと充足感に満ちています。その子が本当にしたかったことを満足するまですること、そこに意味があります。“子どもは、自分自身の建設者である”成長とは、自分という人間を開放させていくこと。そして満足すると気持ちが安定し、自分を大切に思う心は他人を大切に思う心を育てます。長い人生の中には幸せなことだけが訪れるのではなく、悲しいこと、苦しいことを味わうこともあるでしょう。そんな時悲しみや辛い気持ちに押しつぶされてしまわない、問題を乗り越えていける大人になるといいですね。今、幼稚園ではA組さんが作品展に向けてお仕事をしています。何を作るのか考え、「先生、宇宙の本を貸して下さい」「今日は、何つくろうかな？」「赤い色画用紙半分、緑の色画用紙半分下さい。うーん茶色も？やっぱり茶色はいらない！」と職員室に来ます。アイデアをだし、迷いながらも、作品に向かっている子どもたちのこの力がやがて明るい未来に繋がっていくと信じています。

主任 福留



～なかよし組(かかわり)～

3学期になり、なかよし組では子ども達が、他のクラスの子とも同士の関わりを積極的に楽しむようになってきたり、AさんBさんCさんDさんたちの成長を感じる場面が多くみられます。泣きながらお着替え荷物を、引きずるように持っていたCさんも自分の荷物を持てるようになり、さらにDさんのお友だちに「一緒に遊ぼうね！」と声をかけながらやってきます。「先生、おしっこ！」と足をばたつかせているCさんがいると、クラスの違うAさんでも「先生、私が連れていってあげる」とお世話をしてくれたり、折り紙が上手に折れず、困っている子どもに「ここ難しいから折ってあげる」とお手伝いをしています。縦割り保育の良さを感じ、子どもの育ちの大切さを教えられている気持ちです。

上野

～子どものつぶやき～

Cの☆くん「先生、僕、昨日ご飯全部食べたから大きくなった？」
T「うん、大きくなったよ」
☆くん「じゃあ、Aの部屋に行ってきます！」

降園保育の中で、十二支の話をしました。すると、子どもたちは次々に自分や、家族の「えと」を言い始めました。みんなよく知っているなあと思っていると、Bの☆君が「僕の妹は、何年(なにどし)でしょうか？」とクイズを出しました。A組さんの○君がはりきって答えましたが、なかなか正解しません。たまりかねた○君「ねえ、このなかにあたりがある？」と一言。クイズを出していた☆君も「ねえ、○君なんの話をしているの？」と大笑いでした。

降園バスの中での一言
クラスのお友だちが、給食の後吐いてしまったとの事。○ちゃん「△君がはいちやって...お腹の調子が悪かったみたい。どうしたらいいかな？」Bさんの○君「それは、小児科に行った方がいいよ...」「○○病院は、レントゲンあるかな？ないかも...」「それだったら△△病院の方がいいかもね～あそこはいっぱいレントゲンもあるから...」と...お友だちのことを心配して真剣に話す姿が可愛らしかったです。子ども達も病院を選んでるようです。

～3学期が始まると同時に～

「作品展に何をするか決めた！」「国旗を作る！」A組の子どもたちから作品展についての声が聞こえてきます。自分のやりたいことは...？自分の好きなこと・得意なこと・やってみたいと思うこと・これまでの体験(お部屋のお仕事・延長保育・Aのお部屋)で楽しかったこと等、担任から作品展についての話を聞いて考えます。



【子どもたちと先生方の関わりの一部】

- ☆ Aの部屋で大人顔負けのバラの花を折ってくれた○ちゃん「作品展にできそうね。先生に持って行って見せてごらん」の声かけに、さっそく担任に見せにきました。そして、あっという間に商談成立！
- ☆ 毎日のようにお絵かきをしていた△ちゃん。スケッチブックには、きれいな洋服を着たお人形が描かれてあります。「ママに、ドレスを着せたいんだ」の一言に着せ替え人形を提供すると、目を輝かせて大きく頷きました。
- ☆ 延長保育の時間に、「のりはり図形」のお仕事を担任から褒められた口君。お友だちからも褒められて自身ももてたようです。そしてそのまま作品展では、迷わず「のりはり図形」
- ☆ 「爆弾が作れる！」と爆弾を作って見せてくれた◆君。丸い形に黒の色紙を貼って、赤い導線のようなものがついています。「この爆弾をどうするのかな？」担任から問われても...？◆君にとってはほぼ完成のつもり。そこで、爆弾に描かれていたドクロマークに気づいた担任が「このマーク海賊船で見たことがあるよ。海賊船には爆弾を積んでるよね」と話始めると、「船を作る！」と意気込みました。がしかし、翌日はモーターボートに心変わり、さてはて、これからどこへ進んでいくのでしょうか。
- ☆ 「僕は、スペースシャトルがどうやって地球から離れていくのか知りたいんだ」と呟く◎君。さあ、どうやって作品に結びついていくのでしょうか。



この時期、子どもたちは悩みます。と同時に教師も迷い悩んでいます。子どもたちの希望をどのような方向へ、どういった素材を使い、どのような色合いで...これまでの関わり観察を通して見出したことを繋ぎ合わせながら、ひとりひとりを促して提供していきます。そして、子どもたちの中に、潜在している能力が開花していく過程となりますように、その手助けができますようにと、朝のお祈りを捧げる私たち職員です。

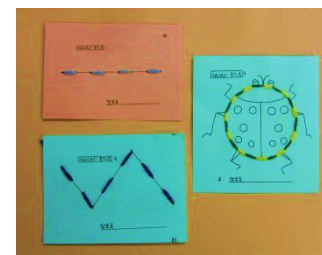
藤田

★モンテッソーリ教具って何？★

Vol.8 縫いさし

子どもたちが大好きなお仕事の一つに「縫いさし」があります。線や絵にある点に目打ちで穴をあけ、糸通しや玉結びをし、縫っていきます。最初は針に糸を通すのも、通した糸を玉結びするのも一苦労。「先生、やってください」と、教師に頼んでくる子どもたち。しかし、次第に「私もやってみる！」と挑戦するように。何度も繰り返すうちに「先生、できたよ！！」と嬉しい報告が届きます。そんな子どもたちの満面の笑顔を見ていると、「むずかしいことに挑戦する気持ち」「あきらめない気持ち」そして何よりも、「自分の力でできたときの喜び」が子どもを大きく成長させてくれるのだと感じます。

縫いさしは台紙の種類も様々です。初めは直線を縫い、次第に曲線や形に沿って縫えるように展開されています。また、点と点の間隔もどんどん狭くなっていきます。「1番が終わったから次は2番をする！」「この間よりむずかしそうだけど、やってみる！」「この色の紙には何色の糸が合うかなあ♪」自分で台紙の難しさや色を決められるのも、楽しんで取り組める1つの要因かもしれません。



Aぐみ・Aさん→年長児
Bぐみ・Bさん→年中児
Cぐみ・Cさん→年少児
Dぐみ・Dさん→満3歳児



学校法人カトリック学園 ひまわり幼稚園

〒891-0113 鹿児島市東谷山3丁目31-13 TEL:099-268-2340 FAX:268-2333